

キャリア・パスポートを効果的に活用したキャリア教育の実践

小樽市立稲穂小学校 学級数 13 (校長 遠藤 隆典)

□ 実践の概要

本校は、児童一人一人の将来を見据えた資質・能力の育成を目指し、目指す子どもの具体的な姿を示したキャリア・パスポートを核とし、分掌業務や学年経営との連携、保護者・地域との共有及び中学校との共通理解を深めながら、キャリア教育の充実を図った。

1 実践の目的

キャリア教育の充実を通して、児童が自分の将来を見通しながら主体的に学び、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力の育成を図る。

2 実践内容

(1) 実施計画

- ① キャリア・パスポートの共有 ② 目指す姿の達成に向けた取組
③ 評価と改善 ④ 保護者・地域との連携

(2) 取組の具体

- ① グラウンドデザインを基盤にしたキャリア・パスポートの作成を通して、「子どもの将来や生き方をともに考える学校」のテーマを全教職員と共有した。
- ② キャリア・パスポートに示された「具体的な目指す姿」を達成するため、分掌業務マネジメントシート、学年・学級経営案、年間指導計画に目標や取組を明確に位置付けるとともに、学級活動の取組を総合的な学習の時間や社会科などの各教科等と関連付けながら展開した。
- ③ キャリア・パスポートの記載内容や各種アンケートなどのエビデンスを基に結果を分析した上で、短期的・長期的なキャリア教育の改善の方策を協議した。
- ④ 学校運営協議会や保護者会で説明及びHPや学年だよりによる情報発信を行い、保護者にキャリア・パスポートへの「励ましコメント」を依頼して家庭との協働を促進するとともに、幼保小連携会議、小中連携会議でキャリア・パスポートを共有し、学校間の円滑な接続を図った。



【目指す具体的な姿の達成について交流する場面】

※お子様の成長やがんばりをご覧いただき、ご記入ください※
おうちの人から（1学期・夏休みを終えて）

1学期は、最高学年として、また児童会として、全校の前で話し合い、行事の準備や運営に關わり、多くの経験を積み、成長することができたと思います。学習面でも、国語の課題に積極的に取り組み、自主学習のまとめが工夫したり、よく頑張りましたね。2学期も友達と協力しながら、色々なことに挑戦してほしいと思います。

【保護者による「励ましコメント」】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

児童の自己理解や将来を考える意識の向上や教職員間の学年・分掌を越えた一体的な取組の推進、保護者や地域におけるキャリア教育への理解と協働を促進することができた。

取組の形骸化等を解消するために教職員間で活用方法を共有し、保護者への周知・活用促進の工夫を行うとともに、幼保小・小中連携におけるICT活用による情報共有の仕組みを整備する必要がある。

(4) 改善後の取組

- ・学習や学校行事において、児童が自ら目標を設定し、自分事として取組を振り返ったり友だちと交流したりする場面を計画的に位置付ける。
- ・保護者に対して、キャリア教育に関する資料提供や職場体験活動・社会人講話等への参加を促し、家庭との協働体制を強化する。
- ・幼保小・小中連携においてICTを活用した情報共有を進め、学校間の継続的かつ体系的な接続を図る。

3 実践のポイント

- ・主幹教諭が中心となり、キャリア・パスポートを学校全体の共通ツールとして位置付けることで、体系的なキャリア教育の体制の確立はもとより、カリキュラム・マネジメントの充実につなげたこと

キャリア・パスポートを効果的に活用したキャリア教育の実践

むかわ町立鷗川中学校 学級数5 (校長 宮田 真基)

□ 実践の概要

本校は、連携型中高一貫教育を実施する北海道鷗川高等学校と連携し、総合的な学習の時間に「むかわ学」として探究活動に取り組むなど、キャリア教育を推進している。また、学級活動でのキャリア・パスポートへの記録を通して、自らの足跡と現在の自分を見つめ、未来の姿をイメージする学習活動に取り組んでいる。

1 実践の目的

「むかわ学」において、各学年における探究活動を通して問題発見・解決能力の育成、他者との協働（コミュニケーション力）、学びの自己調整、ICTリテラシーの涵養などに取り組むとともに、「むかわ学」による学びと生徒自身のキャリア・パスポートへの振り返り、教師・保護者からのメッセージを通して、生徒の主体性を高めるとともに自らの人生を切り拓くために必要な生きる力を育成する。

2 実践内容

(1) 実施計画

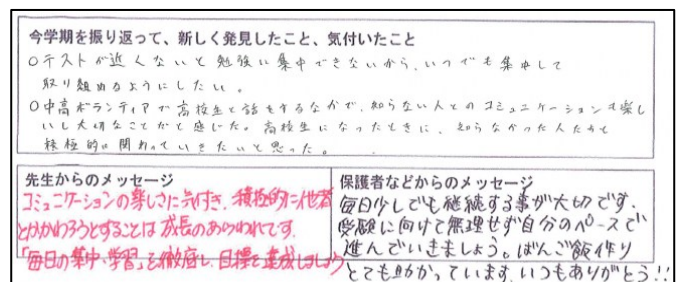
	第1学年	第2学年	第3学年
前期	中高連携オリエンテーション 中高ボランティア（花壇整備） 中高（進路）説明会 恐竜探究（地域学習） キャリア・パスポートへの記入	中高ボランティア（町内清掃） 中高（進路）説明会 上級学校訪問（札幌大学） キャリア・パスポートへの記入	中高連携学習会Ⅰ期 中高ボランティア（海岸清掃） 中高（進路）説明会 上級学校訪問（日本体育大学） キャリア・パスポートへの記入
後期	職業調べ 中高連携学習会Ⅲ期 キャリア・パスポートへの記入	職業体験 中高連携学習会Ⅲ期 キャリア・パスポートへの記入	中高連携学習会Ⅱ期 キャリア・パスポートへの記入

(2) 取組の具体

生徒は第1学年のオリエンテーションにおいて3年間の学びについて見通しをもつ。中高ボランティアでは、高校生の姿からリーダーシップの発揮の仕方や望ましいコミュニケーションの在り方について学び、中高説明会では、自身の進路や生き方への理解を深める。また、各学年の探究活動において、課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現のプロセスを通じて、よりよく課題を発見し解決するための資質・能力を育成し、自身の学びの振り返りや学習成果を学級活動において、キャリア・パスポートに記録する。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

「むかわ学」の学びにおけるキャリア・パスポートの記述から、生徒自身が学びの成果や自己の変容について客観的に捉える姿が見られるなど、生徒の主体性やこれからの時代に必要な資質・能力の育成を図ることができた。



(4) 改善後の取組

【キャリア・パスポートの記述】

学習することや体験することが目的にならないよう、「むかわ学」で身に付けさせたい資質・能力について改めて中・高の教職員全体で共通理解を図るとともに、生徒と共有する。また、キャリア・パスポートの項目の在り方について、継続的に検討し、必要に応じて修正を図る。

3 実践のポイント

- ・町内の小・中・高等学校、地域の方々、町教委と連携し、キャリア・パスポートの活用を図ったこと
- ・キャリア・パスポートに教職員だけではなく保護者から生徒の成長を前向きにとらえた激励のメッセージを記載する機会を位置付けたこと

学校課題の解決に向けたキャリア・パスポートの効果的な活用

白糠町立庶路学園 学級数 16 (校長 大西 展史)

□ 実践の概要

本校は、各種調査結果等から明らかになった「子ども一人一人が自分のよさを自覚する」という学校課題の解決に向けて、各分掌が方策を検討、実践することを通して、子どもの自己肯定感を高めるための取組を推進している。

1 実践の目的

「先生は、よいところを認めてくれている」と回答した子どもの割合が高い一方、「自分にはよいところがある」と回答した子どもの割合が低いという実態の改善に向けて、キャリア・パスポートの効果的な活用をとおして、子どもたち一人一人が、自分にどのような力が身に付いたのかを自覚し、自身の成長をよさとして実感できるようにする。

対象	設問	令和6年度						令和7年度					
		第1回(7月)		第2回(12月)		第1回(7月)		第2回(12月)		第1回(7月)		第2回(12月)	
教職員	児童生徒に対して肯定的な声かけを行うことを意識したり、良い言動について価値づけたりしている	3.43				3.40				3.54			
子ども	自分には、よいところがあると思う	3.03	3.36	2.78	2.95	3.17	3.50	2.94	3.06	3.14	3.41	2.88	3.14
子ども	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	3.50	3.85	3.23	3.42	3.62	3.75	3.36	3.46	3.33	3.61	3.23	3.14
保護者	お子さんは、学校で嬉しかったことや先生に褒められたことなどを話している	3.35	3.64	3.29	3.13	3.29	3.55	3.38	2.94	3.44	3.64	3.18	3.50

【学校評価集計結果 一部抜粋】

2 実践内容

(1) 実施計画

① キャリア・パスポートに綴じる目標シートの変更

特別活動において、目標、中間の振り返り、事後の振り返りに加えて、「自分のよさ」「そのよさをどのように生かすか」「実際にどうであったか」を記述するよう変更するとともに、取組の過程において発揮したい自分のよさについて考える機会を位置付けた。

② フィードバックの在り方の工夫

従来は、主に担任が学級の子どもの振り返りに目を通し、コメント等により価値付けていたが、各取組を直接指導した教員が分担し、価値付けるよう工夫した。

また、その際、「①」の通り、事前に子どもが記述した「自分のよさ」「生かす力」との関わりにおいて、教員が見取ったことを価値付けるようにした。

(2) 取組の具体

自分でなく、褒められてあげられて素直です。
 ノスタの自習本冊子。(ほいめわり本冊子)で
 コツコツ頑張っていました。皇の画を見て
 自分の勇気を発揮する姿も良かったです! お褒めです!
 学園祭の目標を立てよう!

子どもが発揮したいと記述した力に係る姿を取組の過程で見取り、子どもの記述に正対した価値付けを行った。

ねらい：みんなで一緒に活動することで、集団生活を学び、それぞれが役割と責任を理解し、互いにサポートすることで、集団活動の向上を目指すことができる。

	自分のよさ	学園祭のどんなところで生かせよう?	やってみてどうだった?
自分のよさ	どんなことがあってもポジティブでいられる!	ダンスとかで自信がない友達がいいたら、ほげましてあげたい。	自分も少しはぎんちょうしたけど本来のステージで一緒に踊った人をほげますことができた!これからみんなをほげませ

自分のよさをどのように生かしていかを事前に考えるようにしたことにより、自分のよさを生かした経験を振り返る姿が見られた。

【目標シート 一部抜粋】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- 子どもが自分のどんなよさを、どのように発揮できたかを振り返る機会を設け、教員による価値付けを工夫したことにより、自身の成長をよさとして実感する子どもの姿が見られた。
- 学校課題や取組の目的を全教員で共有したことにより、子どもの思いに基づいて活動の様子を見取るなど、教員の価値付けを工夫することができ、キャリア・パスポートの効果的な活用につながった。

(4) 改善後の取組

学級目標や個人目標等と、自分のよさとの関わりを子どもが意識できる取組を取り上げ、日常的に自分のよさについて考え、自覚することができる取組を行う。

3 実践のポイント

- ・見通しと振り返りを大切に、取組の過程で教師が見取る視点を明確化したこと
- ・学校課題について全教員で丁寧に関共有する等、目的と手段についての共通理解を図ったこと